

政府出展の空間・展示のあり方

2023年1月
農林水産省・国土交通省

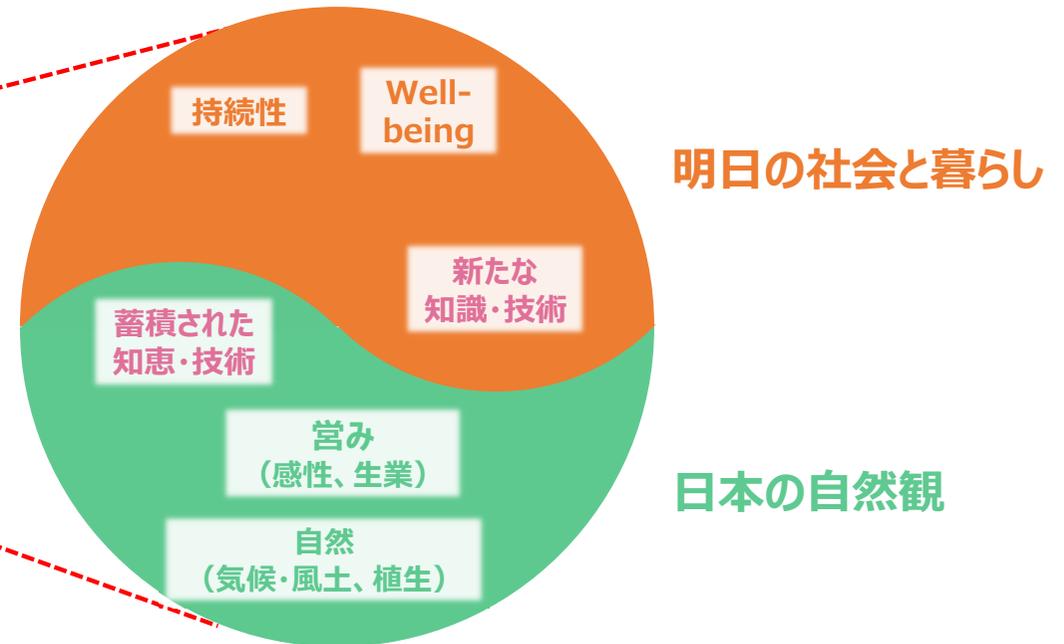
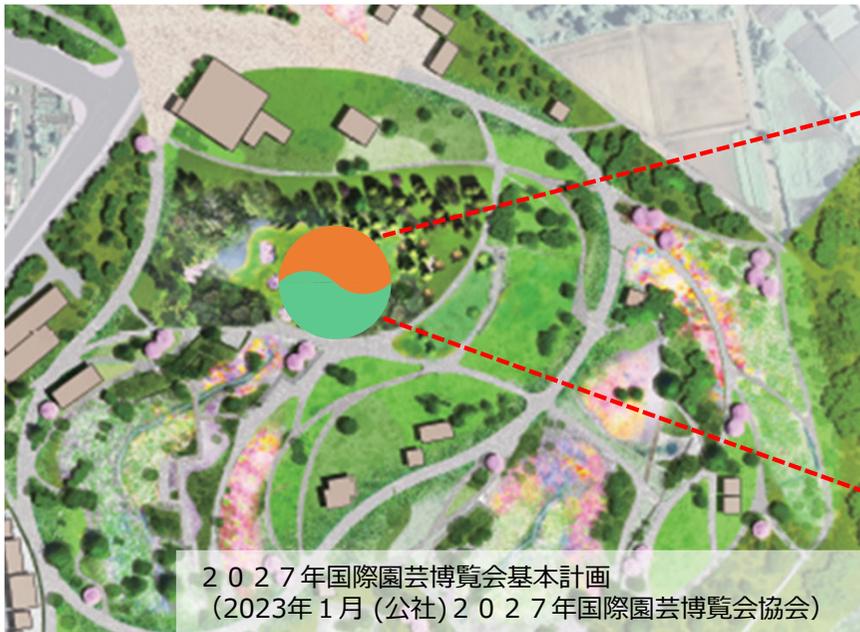
展示のあり方

【目指すところ】

- 展示を「日本の自然観（温故知新）」と「明日の社会と暮らし（不易流行）」で構成。全体の調和に配慮しつつ、多様な気づきや探求のきっかけを得られ、その後の探求や実践を促すものを目指す。
- 「日本の自然観」に係る知恵や技術を体系化し、国際的な知識・情報として共有することを目指す。
- 「明日の社会と暮らし」を、「持続性」「well-being」の2点に焦点を当て、「日本の自然観」から学び、新たな知識・技術を加えたものとして示す。

【ターゲット】

- 小学校高学年から中学生の知識レベルを前提とした展示とした上で、五感を通じた体験やデジタル技術等を駆使しつつ、低年齢層や大人も楽しめる仕組みとする。



「気づき」の例

- 屋内展示での気づき（植物からできた物の多様さを通じた生物多様性の重要性、植物に囲まれた空間の心理的効果 等）
- 1つの眺望体験からの気づき（グリーンインフラの重要性）
- 出展エリアを回遊し、最後に得られる気づき（日本の将来像）

■ 展示要素

明日の社会と暮らし

日本の自然観

展示空間

屋内展示

屋外展示（庭園・広場）

花やみどりのある暮らし

花・みどりの新たな効用

花本来の魅力

バーチャル空間での
花き産業

バイオフィリックデザイン

食の生産

暮らしと農業の関係

食料安全保障
(食料、生産資材)

メタファーム (バーチャル農業体験)

スマート農業
(ドローン、小型ロボット等)

都市と農業の関係

みどりの食料システム戦略
(有機農業等)

様々な農のグラデーション
(農業体験、市民農園)

防災・減災

気象災害予測技術

雨水貯留・浸透技術
(グレーインフラ)

流域治水

雨水貯留・浸透技術
(グリーンインフラ)

生態系を活用した防災・減災 (Eco-DRR)
(防風林、霞堤、防災林等)

みどり管理

市民等による
維持管理

花壇
(農業高校・農業大学)

剪定・樹木管理技術
(透かし、枝折等)

自然とのふれあい

緑地、河川等での
環境教育

気候風土と関連する年
中行事、祭礼

暦、二十四節気、
七十二候

自然資源を活用した循環型の暮らし

CLT等の木材利用

LCCM住宅、ZEH

里山

屋上緑化・壁面緑化

ウェアラブルデバイスによる
緑の効果検証

農業の多面的機能

農と郷土文化の関係
(郷土の祭事・芸能、竹細工、
茶文化等)

貯留した雨水の活用

花やみどりをめぐる文化や慣習

日本人が育む花き文化
(いけばな・盆栽)

日本人が育んだ花き品種

花きの生態・生産技術

伝統園芸植物 (朝顔、桜、
梅、椿、花菖蒲等)

日本人と園芸の歴史
(浮世絵、江戸園芸等)

美しい風景・ 芸術的な空間

和歌、節句

現地の緩やかな起伏

植物・微生物の動きの可視化

伝統的な庭園技術
(借景・縮景等)

日本庭園

多自然川づくり

生物の生息環境

和泉川の源頭部

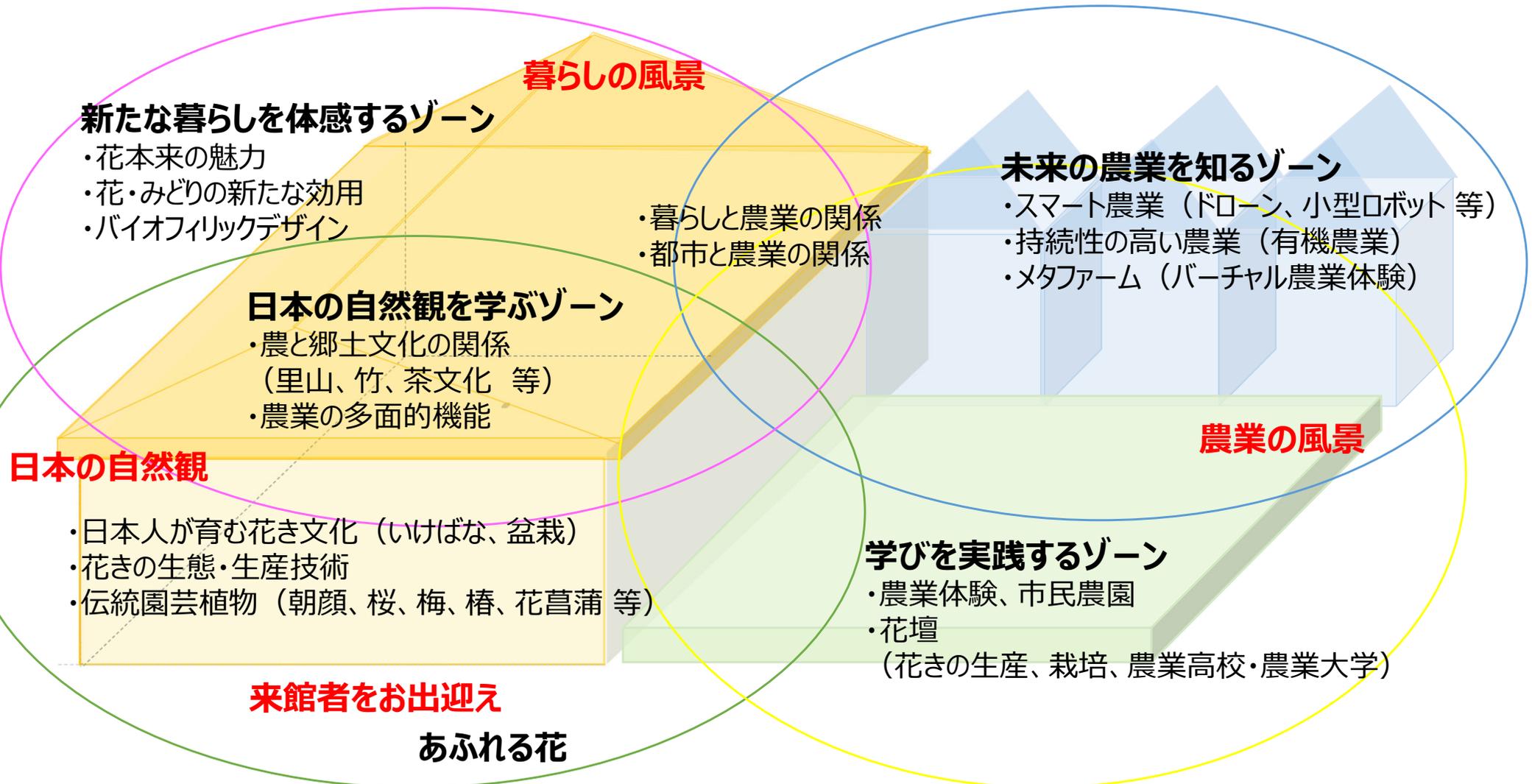
四季の変化

デジタル

屋内展示のイメージ

【みどりと共にある社会と暮らしの探求】

- 屋内展示においては、日本の自然観を学び、新たな暮らし、未来の農業を知ることができる展示とし、それぞれを有機的に結びつつ、その構成要素の1つ1つを紐解くことにより、全体を俯瞰し、理解を深める展示とする。
- デジタルの活用や体験等により、花・みどり、農を体感し、気づきを得ることで、探求や実践を促すような展示、演出とする。



庭園・広場のイメージ

【みどりと共にある社会と暮らしの百景 ～田園都市像2039～】

- 2039年（明治開港180年）をターゲットとし、**未来の日本の国土・まちづくりと暮らしを、自然共生を軸に展示。**
- **元々の土地のポテンシャルを重視し、いかす出展**を行い、屋外で表現しきれない展示は、屋内展示で補完する。
- **バイオフィリックデザイン**等を取り入れた建築物で都市を表現しつつ、伝統技術と最新技術を取り入れた庭園には、**グリーンインフラ**の要素も取り込む。
- 里山や**都市農業、市民農園**を展示し、林業や農業の多面的機能等を示すことも検討する。

庭園のような屋外空間

- ・雨水貯留・浸透技術などのグリーンインフラの要素
- ・伝統的な庭園技術
- ・最新の土木技術

生活と生産の融合

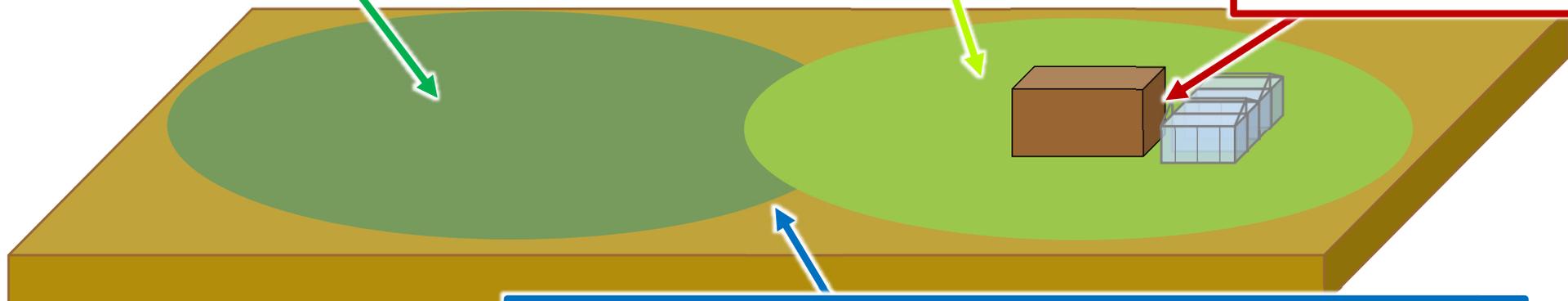
- ・都市の農、市民農園、花のある景観

都市をイメージする建築物

- ・バイオフィリックデザイン
- ・CLT等の木材利用
- ・雨水の貯留・利用
- ・特殊緑化
- ・ZEH等の省エネルギー建築

地形などの自然物との関係性を示す。

- ・もともとの土地が持つポテンシャル（地形や位置、水）を重視



空間のあり方

➤ 「屋内」「庭園・広場」「デジタル」の空間を用意するとともに、みどりと共にある社会と暮らしを想起させる要素を表現する。



■ 今後の展示計画・空間計画の検討

- 政府出展検討会において、次に掲げる項目を具体的に検討。
- 政府出展基本計画案に盛り込んだ上で、第3回政府出展懇談会で提案。

1 展示計画について

展示フロー、各展示のねらい、展示方針 等

2 空間計画について

景観・空間デザインのあり方、必要施設と機能、
施設配置の方向性、建物構造の概要 等